

様式 2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP 公開 (  可 ・  否 )

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 植林	(ふりがな) しょくりん	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	育苗		
伝承地域	南相馬市原町区大甕地区		
由 来	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)</p> <p>大甕村 (現南相馬市原町区大甕) 萱浜の巢掛場には大林区署 (のちの営林署) の広大な苗圃があった。明治 38 年 (1905) 2 万平米近くの開墾に着手し 39 年度から苗圃で育苗を始め、昭和 44 年度には 23 万 5 千平米の面積を抱えることになった。営林署は陣ヶ崎にも苗圃を持っていたが、後に大甕苗圃に移行している。苗圃を閉じたのは平成元年 (1989) のことである。大正元年時点の大林区署経営の苗圃は大甕、陣ヶ崎のほか、双葉郡広野、西白河郡白河、矢吹、北会津郡八幡、耶麻郡常世、信夫郡水保、安達郡玉ノ井にあった。阿武隈山地の多くの国有林は当地の苗が育ったものである。</p>		
内 容	<p>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合はレシピなども)</p> <p>職員は事務仕事や指導に当たり実務は周辺の集落から雇用した。細かい作業が多いため圧倒的に女性が多く、繁忙期の 3~4 月は 300 人を超す作業員がいた。労働時間は午前 7 時から午後 5 時まで。</p> <p>事務棟のほか気象観測施設などもあった。苗圃は 3 ブロックに分かれ、畑は 2 反歩程度の広さで周囲は風よけのためヒノキの生垣が巡らされていた。</p> <p>この苗圃で育てたのはスギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、クヌギなどでスギが最も多い。昭和 20 年代から昭和 30 年頃の大甕苗圃からの苗の出荷数は 270~300 万本であった。</p>		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典)『原町市史 11 旧町村史特別編Ⅳ』 南相馬市教育委員会		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)			※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。(貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	男 ・ 女		
	生年月日	明治・大正・昭和・平成	年生	
	住所・電話	〒 電話		
	職業			
団体	団体名 (ふりがな)			
	代表者氏名 (ふりがな)			
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	年 月 日	
	問い合わせ先			電話

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

4月上旬から下旬にかけてが植え付け(床替え)の時期で、苗床から畑に苗を移す作業である。苗圃は馬耕でうなって畝を立てて肥料を入れる。さらにレーキで平滑に均す。畝幅は30センチメートルくらいで、真ん中にスジ引きをして苗間10センチメートル程度に苗を植えた。作業員一人が畝2~3本分を受け持つ。夏は除草に追われる。また春から夏にかけては虫害にも注意する。

たいていの苗は2年間苗圃で育てると出荷する。出荷時期は春であった。平鋤を使って苗圃から苗を掘り起こす作業を「掘り取り」という。昭和30年代になって馬が引く掘取機を使うようになると人力では800本程度の作業が1500本近くに向上し出荷率が上がった。掘り取った苗は土を落とし50本ずつまとめて藁や縄で縛り仮植しておく。仮植したものを出荷するが仮植が長引くと縛った苗は蒸れるので、解いて仮植しなおした。

苗木の移植(床替え)



苗の掘り取り



(南相馬市教育委員会)

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。